

国際セミナー

「歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：
南京を思い起こす 2011」

日中の戦後世代を対象にした
新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発
～ Healing the Wounds of History による平和構築～

はじめに

本著は、2011年10月5日から8日にかけて南京にて開催された4日にわたるセミナー「歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：南京を思い起こす2011」の記録と考察である。2009年10月に実施した「南京を思い起こす2009」の記録はすでに公開してある（http://www.ritsumei-human.com/hsrc/resource/19/open_research19.html）。あわせて参照されたい。

セミナーは3カ国語で実施された。残念ながら、時間の制約があって、原稿執筆や翻訳作業が間に合わなかったものがある。通訳、翻訳にあたって、微妙なニュアンスの変化や、場合によっては誤解があったかもしれない。参加者感想にはワークショップの内容が含まれているが、書き手によって若干の違いがあるかもしれない。同一の事象であっても、受け手による捉え方の違いがあり、通訳や翻訳も加わって、さらに複雑なねじれが起こり得る。それらを含めて、小さな歴史の構築と言えよう。いずれにしても、セミナー実施も、本著の編集も、通訳の皆さんを初め、ワークショップに参加しながら、さまざまな役割を持って貢献して下さった皆さんの国境を越えた協働抜きには成り立たなかった。課題はさまざまに残されているが、このようなプロセスそのものが平和につながることを期待したい。

今回は、文部科学省「科学研究費基盤（B）：日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発3」の助成金を得て、セミナー開催が可能になった。立命館大学応用人間科学研究科、南京師範大学歴史学部、立命館大学 R-GIRO「法と心理の協働」、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」、文部科学省「科学研究費基盤（B）：バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー」の協力も得た。

最後になりましたが、張連紅先生、アルマンド・ボルカス先生、エディ・ユースさん、笠井綾さん、中国のプレイバック・フレンズさん、日本のプレイバックーズさん、羅萃萃先生、村川治彦先生、金丸裕一先生、小田博志先生、通訳や翻訳、記録やテープ起しなどお手伝い下さった皆さま、参加者の皆さま、お力添え頂いたすべての皆さまに感謝します。ささやかな歩みではあるが、こ

れからも、共に手を取り合い、一步一步、平和な未来に向けて歩いていけると願っている。

2011年11月30日 村本邦子